
ある一夏の冒険

便器詰まったときのクーポンてやつ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ある一夏の冒険

【Nコード】

N0316Y

【作者名】

便器詰まっただきのカップンてやつ

【あらすじ】

一人の少年が、ほんのちよつとの冒険をする。少年はふとしたキッカケで大人になる。

ついにこの日がきた。

自宅の最寄り駅から二駅離れた本屋の前に俺は立っている。

県内限定で数店舗出店しているチェーン店である本屋の規模は、大きくも小さくもない。

自宅近くには大型書店があるため、距離のことも合わせて知人に遭遇するという最悪の事態は避けられるだろう。

俺が今日、この店を訪れた理由、それはただ一つ。エロ本を買うことだ。

店内に入ると、やや肌寒さを感じるほどの強めのクーラー設定の洗礼を受ける。

ここに来る前にトイレは済ませたはずなのに、クーラーの温度設定のためか、それとも本屋の持つ正体不明の魔力によるものなのか、微かな尿意を感じた。

まずは軽く週刊誌のコーナーを覗く。

本来なら昨日が発売日であるはずの漫画週刊誌であるが、一日遅れで本日発売コーナーに平積みされている。

さらにそこから、漫画コーナー、ライトノベルコーナーと周り、ついに成人誌コーナーへと辿り着いた。

そこには出版社があらゆるニーズに応えんとした証であろう、さまざまな嗜好に合わせたエロ本が、百花繚乱といった風情に並べられていた。

ここで注意しなければならないのは、通常のエロ本に混じって風俗情報誌やアダルトビデオ情報誌が置かれている点だ。

それらはエロ本ではなくエロい本であり、エロ本とは似て非なる代物だ。

厳選に厳選を重ねた結果、今回購入するエロ本はベタに巨乳モノでいこうと思う。

巨乳という名の肥満体や、首から上が残念な女性がいる可能性があるもの、巨乳というジャンルは女子校生（女子高生に非ず）や人妻、メイドなどのあらゆるジャンルを内包することが出来るため、全ページがハズレという事態を回避できる利点がある。

とまあ、偉そうに言ったが全ては師匠の受け売りだな。

よし、あとはこの本を持ってレジに行くだけだ。

俺がレジへ向かおうとしたとき、地面が揺れるのを感じた。
地震か！？ と辺りを見回すが、誰一人としてそれに気付いた様子はない。

俺はゆっくりと足元を見る。

地面が揺れていたのではない。

俺の足が震えていたんだ。

「おい、何だよこれ……」

ぶるぶると震える足。

主である俺からの命令を一切無視し、足は震え続ける。

前に進もうとしても、まるで床に貼り付いたようで足を上げることは出来ず、ただ震えるだけだ。

「嘘だろ！？」

まさか俺がビビってるっていうのか！？」

身体が氷のように固く冷たくなり、背中と手の平にはじつとりと汗がにじむ。

喉が渇き、呼吸が荒くなっている。

本来なら赦されぬ、エロ本を購入するという行為、蛇に唆され禁断の果実をもぎ取るという行為に、怯え恐怖し尻込みしているという事実を認めたくない一心で、俺は歩みを進めようとするが足は震えるばかり。

俺は悟った。

そうか、俺にはエロ本を買う資格など初めから無かったんだ。

乳首が描かれている、ちょっとエッチな漫画で満足するのがお似合いだったんだ。

しよせん俺は、身の程知らずのガキだったんだ。

俺は手に持ったエロ本を、ゆっくりと元あった場所へと戻そうとした。

その時――。

「まったく、見ちゃいられねえぜ」

――聞き覚えのある声が聞こえた。
俺は素早く背後を振り返る！

「あとはただ、レジに本を出して金を払って、ハイさよなら、ってだけだろうが」

「あ、貴方は“東の帝王” 鈴木さん！」

何で鈴木さんが此処にいるんだ！？

「此処に居るのは俺だけじゃないぜ」

その鈴木さんの言葉を聞いた時、鈴木さんの後ろにいる人たちの存在に気付いた。

「仮にも俺たちの弟子であろう者がこの体たらくとは……」

「山本さん！」

表紙の第一印象のみで購入を決める“即断決行”山本さん。

「君の中には、僕たちの教えが全て入っているはずだ。
あとは己を信じるだけですよ」

「瀬川さん！」

決して実写には手を出さずエロ漫画一筋“空想の魔術師”瀬川さん。
マジシャン・オブ・ファンタズム

「いざとなりや、ジャンプとマガジンの間に挟んじまえばいいんだよ」

「住吉さんまで！」

洋もの一筋二五年、とうとう先月在日ドイツ人の女性と結婚した
“漆黒の螺旋”住吉さん。

全員が俺の、エロ本道の師匠にあたる人たちだ。

そうだ、そうだった。

俺は決して一人なんかじゃないんだ。

俺には最高の師匠が四人もついている。

師匠たちだけじゃない。

共に師匠の下で学んだ“ジャンプ挟み”の智哉。

思想は違えど、共に戦った“通販購入”の八神。
アマゾンニア

そして、幾度となく争い最後には分かり会えた“機械化皇帝”
ダウンローダー ま

さひい。

彼らの想いの全てを背負い、俺は今此処に立っている。

もはや足に震えなどない。

全身が軽く、足にはまるで羽根がはえたかのようだ。

俺の足はただレジを指す。

今の俺は人間ではなく、エロ本を買うためだけに産まれた一台のマシンだ。

今の俺にはエロスの神の加護がついている。

気付けば俺は駆け出していた

レジまでの道程を歩くのではなく駆ける。

ただ走る。

空気抵抗も慣性も俺には何の意味も持たぬ、ただの言葉に過ぎない。

全身の筋肉が軋み、悲鳴をあげるが、それすらも心地好い。

俺はレジに到達した。

エロ本をレジカウンターに置き、おそらくは大学生のバイトであるろう男性店員ジャッジメントの判決を待つ。

彼が一言「有罪」ギルティと言え、それは未成年ゆえに購入を禁じられたということだ。

店員はエロ本を受け取ると、チラリと俺を一瞥し、エロ本を引っこり返し裏面にあるコードを読み取る。

ここから先は覚えていない。

気付けば俺は、紙袋に入ったエロ本を握り締め、本屋前の歩道に立ち尽くしていた。

俺が店内に入ってから一〇分ほどしか経っていないはずだが、まるで何時間も過ごしたように感じるほどの、濃密な一〇分だった。

俺はしっかりとエロ本を握り締め、歩き出す。

ふと見上げた空は、何だかいつもより青く感じられた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0316y/>

ある一夏の冒険

2011年11月13日05時54分発行